



9/26

工芸の魅力語り合う 県博でシンポ 近代史も解説

国展工芸沖縄展

工芸の魅力について語り合つた。

(後日文化面で詳報)

県立博物館・美術館で開催中の「90回記念国展工芸沖縄展」の関連催事として、シンポジウム「国画会工芸と沖縄」が25日、那覇市の同館講堂で開かれ、学芸員ら研究者と県内外の作家が

東京国立近代美術館工芸館の諸山正則主任研究員が基調講演し、国画会について、日本の近代工芸の歴史を交えながら解説した。

第2部は栃木県民藝協会の平野良和会長が司会を務

め、パネルディスカッショングを開催した(写真)。

諸山さんに加え、日本民

藝館の杉山享司学芸部長、益子陶芸美術館の横堀聰副

館長、国画会工芸部鑑査員長で木漆工芸作家の松崎融

さん、国画会工芸部会員で染織家の祝嶺恭子さんが登壇。それぞれの立場から沖縄や工芸の歴史、今後の展望について意見を交わした。

国展工芸沖縄展は10月2